

行政視察報告書

令和7年10月25日

長浜市議会議長 伊藤 喜久雄 様

長浜市議会議員 松本長治

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 観察等名 令和7年度総務教育常任委員会行政視察研修
2. 観察期間 令和7年10月21日（火）～10月22日（水）
3. 観察場所及び目的
 - ①東京都荒川区
不登校支援について
 - ②茨城県石岡市
廃校の利活用について
4. 調査内容感想等

・観察の目的

長浜市でも、今後もますます大きな課題として懸念される不登校と、子どもの減少に起因する学校の統廃合による廃校の利活用の課題については、早めの計画と手立てが必要であると考えます。

長浜の現状がどうなのかという客観的な見方と、先進的な取組みを行っておられる事例を参考にするための今回の視察は、大いに参考になると考えます。

東京都の荒川区は下町の人情が息づくまちで、子育てや高齢者の支援が充実しているといった印象が強いですし、茨城県石岡市はお聞きすると、50万人の観光客が来られる「常陸國總社宮例大祭」が毎年開催されるまちであるとのことからも、歴史的・文化的にも充実したまちであるとの印象が強く、しっかり学ばせていただきたいと思います。

・視察内容

【東京都荒川区】 不登校支援について

- ・1人の子どもも孤立させないという強い決意と社会的自立という明確なゴールを見据えておられる。
- ・学校に戻るか否かではなく、休養や自分を見つめ直すための積極的な期間ととらえる。

不登校児童・生徒の現状と課題

- ・調査は教員の主観での調査であり、複数の要因が複雑に絡み合い、特定が難しい。
- ・実際に令和元年～5年までの主たる原因のトップは、無気力で変わっていない。

荒川区のコア戦略不登校支援ガイドラインの基本 Adi

- ・学校の役割 チーム学校として。
- ・家庭の役割 学校との十分な連携・情報共有を前提として、休息の場の確保。次のステップへの後押し。
- ・地域の役割 ゆるやかな居場所を提供セーフティーネット。

具体的な3つの施策

① つなカフェの開催

- ・今後の取組 あらかわ子ども応援ネットワークと連携。
- ・三者三様の支援を。
- ・1人の子ども、多くの子ども。
- ・地域社会で子どもを支える。

② 都の事業に参入している荒川区のVLPについて

- ・VISIONARY LEARNING PLATFORMでの学びを推進。
- ・東京都の支援員、荒川区の支援員が常駐。
- ・WEB学習システム『デキタス』活用。

仮想空間上の友達とのおしゃべり。

③フリースクール等利用児童生徒支援補助金について

- ・東京都に申請し審査後、月額2万円までの支援。
 - ・荒川区は東京都の審査をもとに、月額2万円までの支援。
-

支援の質と将来への布石

① 不登校支援ガイドブック 各種不登校支援にかかる出席扱いについて

- ・荒川区のガイドラインでは『登校』という結果にこだわらない。
 - ・社会につながるための第一歩を踏み出すことにつながるものであればよい。
 - ・基準は、子どもたちの頑張りを承認する。
 - ・登校できていなくても、学んでいて、社会と繋がっている安心感を提供。
-

② 不登校児童生徒の成績評価について

- ・不登校支援ガイドラインに基づき、出席日数のみで判断しない。
 - ・ここ努力と進歩を多面的に評価。
 - ・実際は、主な要件が整わず、出席扱いにとどまる不登校は、休養や自分を見つめ直すための積極的な期間。
 - ・全てを学校に来ている児童・生徒と同様に扱うことが難しいため、指導要録や通知表の所見欄などに文章で記述。
-

③ 教職員・保護者向け冊子の反応について

『不登校に対する学校の考えが理解できた』『孤立感が減った』といった、肯定的な反響が多数あり、学校と保護者の共通理解と信頼関係の構築に大きく寄与。

外部連携と今後の展望

不登校対応における都の事業との連携等について

- ・不登校巡回教員。
 - ・登校サポートルームに通う不登校生徒の面談や家庭訪問。
 - ・担当する5校で効果的な取組を共有。
 - ・別室登校用『登校サポートルーム』を設置。
-

・国及び都の補助金を申請し、『登校サポートスタッフ』を配置。

地方所在の小中学校

1、『チーム支援の徹底』 不登校支援は決して担任 1 人の責任ではない。

2、『保護者の低敷居（ロー・バリヤ）化』。

チャレンジスクール

不登校の経験や、高校での中途退学の経験により、これまでの能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標に向かってチャレンジする高校。

エンカレッジスクール

もう一度学び直したい子どものために設けられている。

フリースクールの考え方

・引きこもりの子どもを、なんとか外に連れ出すことの重きを置く。

まとめと質疑応答

・『社会的自立』という揺るぎない理解。

不登校支援ガイドラインによる統一された支援。

『つなカフェ』による保護者と地域との連携"つなカフェ"による保護者と地域との連携。

・令和 9 年度以降の『個別最適な学び』という教育の未来を見つめた先進的な挑戦。

【茨城県石岡市】 廃校の利活用について

お祭り 50 万人の観光客が来られる「常陸國總社宮例大祭」が毎年開催される。

廃校利活用の基本方針について

公共施設等の総合的な管理に関する 5 つに基本方針

① 計画的保全による長寿命化の推進

② 施設保有量の最適化

③ 地区ごとの特性とニーズに応じた施設再編

④ まちづくりと連動したマネジメントの推進

⑤ 資産の有効活用

ファシリティマネジメントに関する基本方針

1、官民対話・官民連携の推進。

2、サウンディング調査による民間活力導入の検討。

3、資産情報のデータベース化及び積極的・効果的な情報発信による売却・貸付の推進。

サウンディング調査の実施

① 新たな財政支出または維持経費の増加をともなわないこと。

② 資金調達の手段、金額を具体的に明記すること経営計画の明示。

③ 『行政経営の効率化』または『住民サービスの向上』のいずれかの具体的な効果があること。

④ 各種法令等を遵守すること。

今後に向けて

・有効活用が図れるよう、閉校前から検討を進める。

・新たな財政支出または維持経費の増加を伴わないようにする。

・一定の期間が経過しても具体的な有効活用手段が決定しない場合は、施設の解体を行う。

教育支援センターについて

1、ワンストップの相談支援体制を構築。

2、育成支援体制を整え、質の高いサービスを提供。

3、誰ひとり取りこぼさない支援を目指す。

支援機能

- ・あすなろ教室
- ・ひまわり教室
- ・特別支援学校アドバイザー
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・日本語指導員
- ・こども相談員

朝日里山学校

- ・林業・癒し・農業・食・自然散策・工芸などができる施設。

- ・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

まず、不登校について両市から受けた印象は、何よりも、引きこもりの子どもたちを、部屋の外に連れ出すことである。外の世界との関係を少しでも築こうとされていることです。そして、社会全体での学びにより、それぞれの生活を皆で作り上げていくとの思いを強く感じました。

今、長浜市で取り組んでいる不登校児童生徒に対する活動に大きな差異はないものの、家庭や関係する組織との横とのつながりは、非常に参考にすべきだと感じました。

廃校利用については、その施設の状況（位置・耐震性・築年数・構造）によりその利用度は大きく左右される。ここで参考にすべきは、統廃合について地元の意向をおろそかにすると、後々問題はより難しくなるケースがある事をしっかりと踏まえ対応すべきであること。

利活用についても、地域の声に耳を傾けつつ、利活用が一定難しいと判断される場合は、取り壊すことも前提として取り組むことが必要と認識いたしました。